

令和 6 年度
産業廃棄物処理動向調査報告書
(令和 5 年度実績)

一 概 要 版 一

令和 7 年 3 月

岐 阜 県

— 目 次 —

岐阜県における産業廃棄物の排出及び処理の状況	1
(1) 発生の状況（全県）	1
(2) 発生の状況（農業を除く）	2
(3) 圏域別の発生状況（農業を除く）	3
(4) 処理の状況	4
岐阜県における産業廃棄物の排出及び処理状況の将来推計	7

岐阜県における産業廃棄物の発生及び処理の状況

(1) 発生の状況（全県）

発生量 4,660 千トン種類別にみると、多い順に有機性汚泥が 1,516 千トン（構成比率 32.5%）、家畜ふん尿が 890 千トン（19.1%）、がれき類が 876 千トン（18.8%）、ガラスくず等が 194 千トン（4.2%）、無機性汚泥が 172 千トン（3.7%）、金属くずが 165 千トン（3.5%）となっており、この上位 6 品目で総発生量の約 8 割を占めている。

業種別にみると、多い順に建設業が 1,127 千トン（構成比率 24.2%）、下水道業が 905 千トン（19.4%）、農業が 891 千トン（19.1%）、パルプ・紙が 578 千トン（12.4%）、窯業・土石が 250 千トン（5.4%）、電子部品が 126 千トン（2.7%）で、この上位 6 業種で総発生量の約 8 割を占めている。

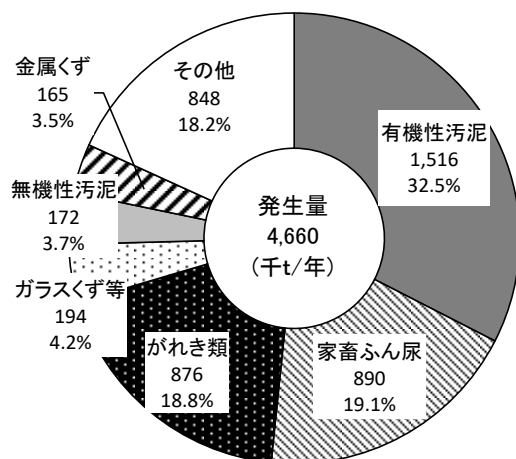


図 1 種類別の発生量

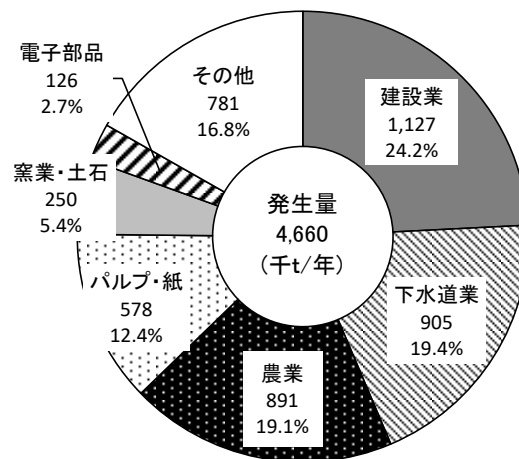


図 2 業種別の発生量

(2) 発生の状況（農業を除く）

農業を除く発生量 3,768 千トンを経類別にみると、多い順に有機性汚泥が 1,516 千トン（構成比率 40.2%）、がれき類が 876 千トン（23.2%）、ガラスくず等が 194 千トン（5.1%）、無機性汚泥が 172 千トン（4.6%）、金属くずが 165 千トン（4.4%）となっており、この上位 5 品目で総発生量の約 8 割を占めている。

業種別にみると、多い順に建設業が 1,127 千トン（構成比率 29.9%）、下水道業が 907 千トン（24.1%）、パルプ・紙が 578 千トン（15.3%）、窯業・土石が 250 千トン（6.6%）、電子部品が 126 千トン（3.3%）、プラスチックが 121 千トン（3.2%）で、この上位 6 業種で総発生量の約 8 割を占めている。

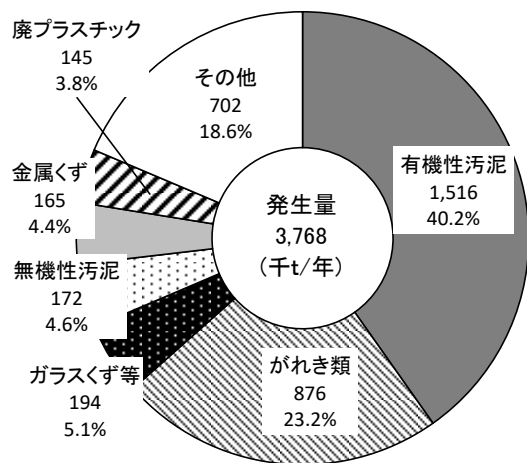


図 3 種類別の発生量

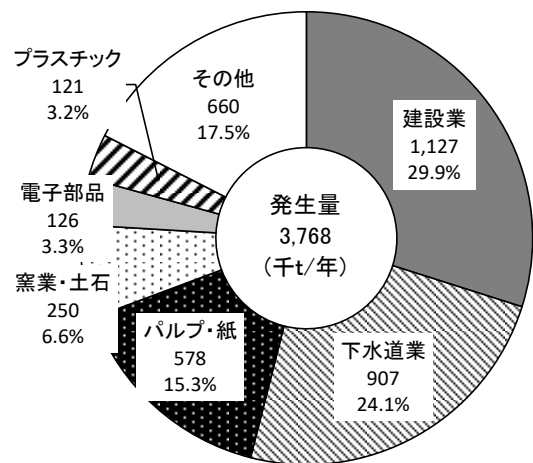


図 4 業種別の発生量

(3) 圏域別の発生状況（農業を除く）

農業を除く発生量（3,768 千トン）を圏域別でみると、西濃圏域が 1,085 千トン（28.8%）と最も多く、次いで、岐阜圏域が 1,073 千トン（28.5%）、中濃圏域が 748 千トン（19.9%）、東濃圏域が 731 千トン（19.4%）、飛騨圏域が 131 千トン（3.5%）となっている。

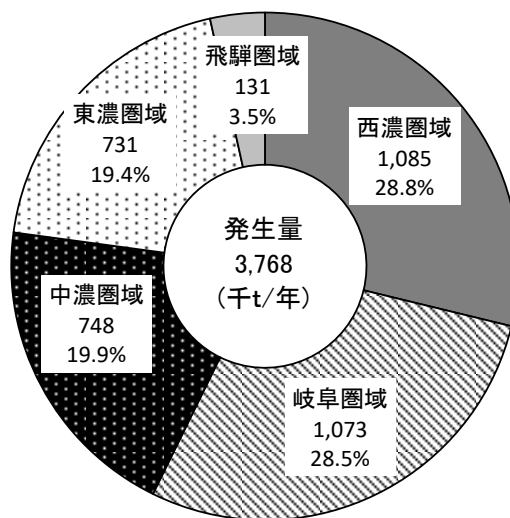


図 5 圏域別の発生量

(4) 処理の状況

① 処理状況の概要

農業を除く発生量（3,768千トン）の内、資源化量は1,954千トン（構成比51.8%）、減量化量1,702千トン（45.2%）、最終処分量113千トン（3.0%）となっている。

また、最終処分量のうち、何ら中間処理されることなく最終処分された直接最終処分量は37千トン（1.0%）となっている。

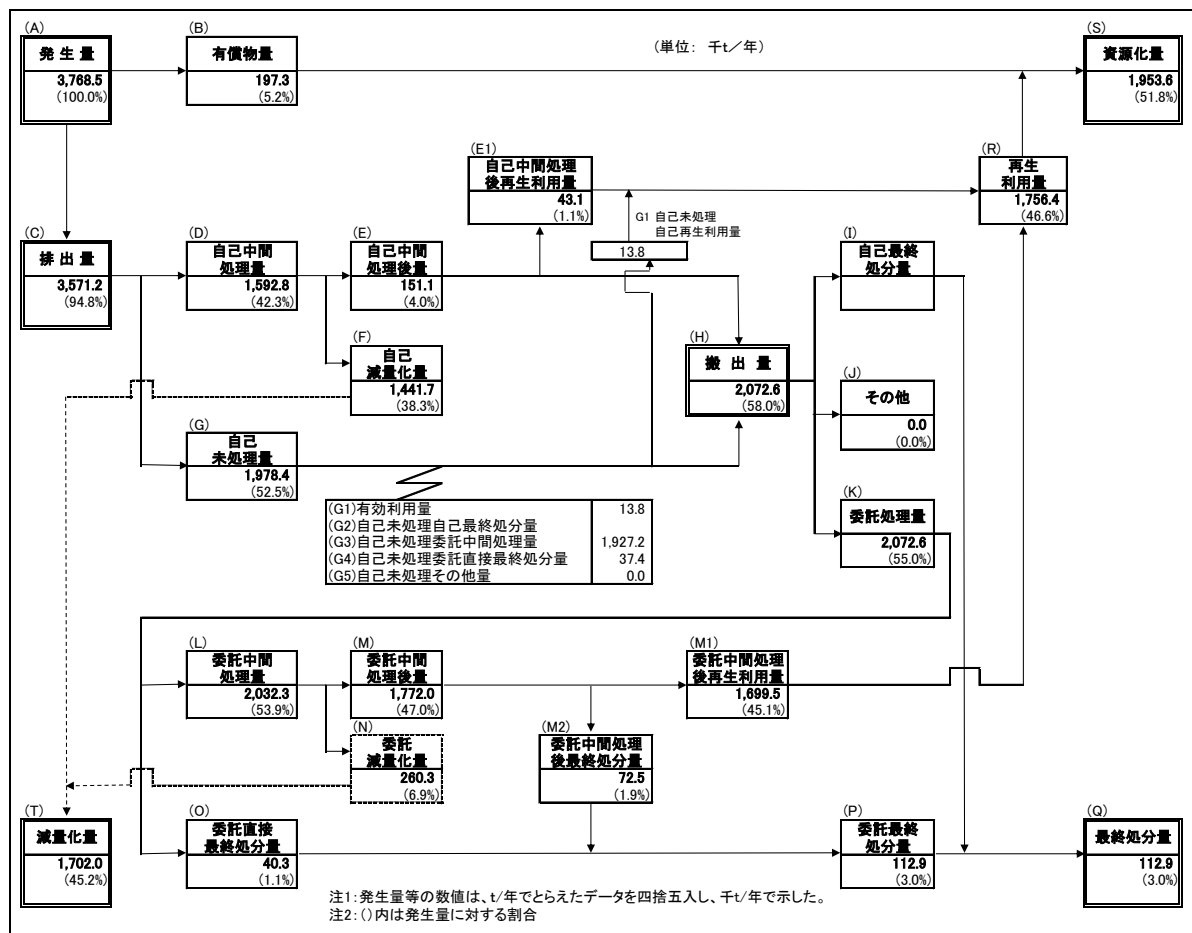


図 6 発生及び処理の状況

②種類別の処理状況

資源化率が最も高いのは、廃タイヤ（100.0％）であり、次いで、ばいじん（99.9％）、がれき類（99.7％）、金属くず（98.6％）、ゴムくず（96.9％）、動植物性残さ（96.5％）となっている。

減量化率が最も高いのは、有機性汚泥（92.4％）であり、次いで、廃アルカリ（78.0％）、廃酸（68.8％）となっている。

最終処分率が最も高いのは、燃え殻（63.6％）であり、次いで、建設混合廃棄物（27.1％）、廃プラスチック（16.0％）、鉱さい（10.5％）となっている。

なお、最終処分量が最も多いのは、廃プラスチック（23千トン）であり、次いで、燃え殻（22千トン）、ガラスくず等（17千トン）、建設混合廃棄物（11千トン）となっている。最終処分量のうち、中間処理されることなく、直接最終処分された廃棄物は、多い順に、ガラスくず等（13千トン）、鉱さい（8千トン）、廃プラスチック（5千トン）、有機性汚泥（3千トン）となっている。

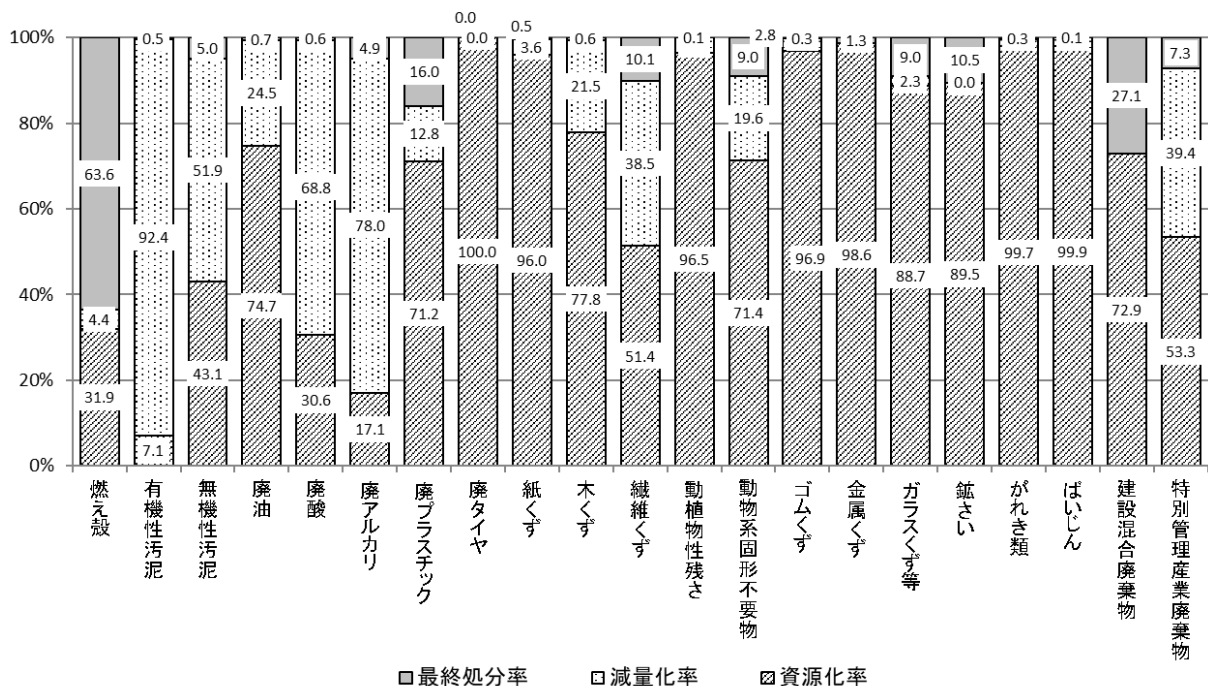


図 7 種類別の処理率（全県：農業を除く）

③広域処理の状況

排出事業者における産業廃棄物の中間処理の委託量は 2,032 千トンであり、このうち、県外で処理された量は 484 千トンとなっている。県外で処理された量を地域別にみると、愛知県で 283 千トン（構成比 58.4%）、次いで三重県が 97 千トン（20.0%）、北陸地方が 36 千トン（7.5%）となっている。

また、排出事業者における委託直接最終処分の委託量は 40 千トンであり、このうち県外で処理された量は 18 千トンとなっている。県外で処理された量を地域別にみると、搬出先で最も多いのは、三重県で 10 千トン（構成比 57.6%）となっている。

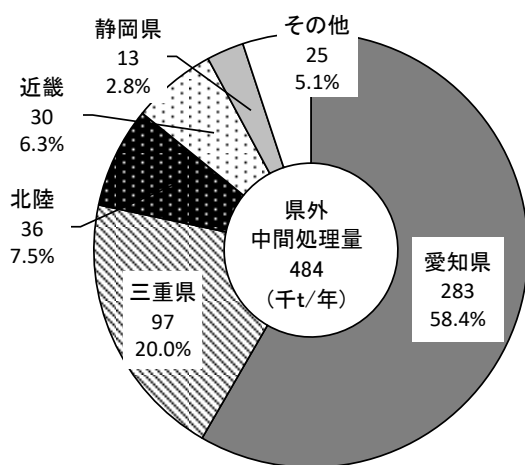


図 8 地域別の委託中間処理量

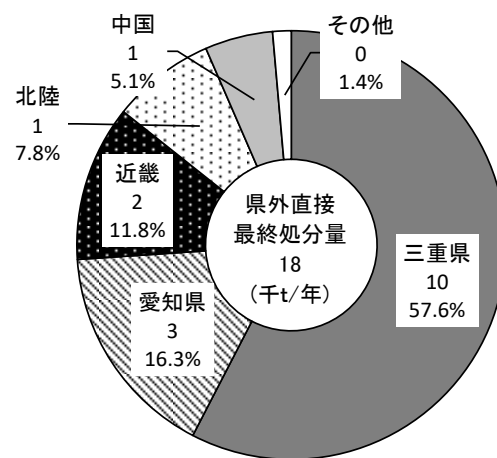


図 9 地域別の委託直接最終処分量

岐阜県における産業廃棄物の排出及び処理状況の将来推計

処理・処分状況についての将来予測結果は、図 10 及び表 1 に示すとおりである。なお、処理状況は、現状の廃棄物別の技術動向で推移するものとして、新技術や処理能力の向上等は考慮していない。

資源化量は令和 5 年度（1,954 千トン、51.8％）に対し、令和 12 年度は 2,059 千トン（53.8％）、減量化量等は令和 5 年度（1,702 千トン、構成比 45.2％）に対し、令和 12 年度は 1,652 千トン（構成比 43.2％）、最終処分量は令和 5 年度（113 千トン、3.0％）に対し、令和 12 年度は 116 千トン（3.0％）と予測された。

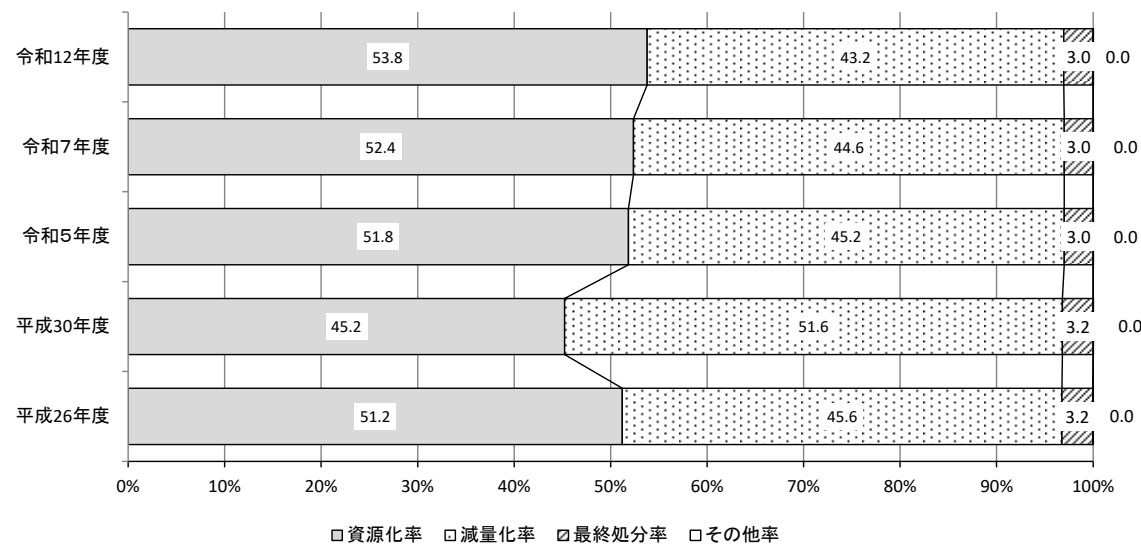


図 10 排出量及び再生利用量等の将来推計値

表 1 処理・処分状況の将来予測結果

種 類	平成26年度		平成30年度		令和 5 年度		令和 7 年度		令和12年度	
	量 (千 t)	構成比	量 (千 t)	構成比	量 (千 t)	構成比	量 (千 t)	構成比	量 (千 t)	構成比
発生量	3,934	100.0%	3,981	100.0%	3,768	100.0%	3,782	100.0%	3,828	100.0%
資源化量	2,014	51.2%	1,801	45.2%	1,954	51.8%	1,980	52.4%	2,059	53.8%
減量化量	1,792	45.6%	2,054	51.6%	1,702	45.2%	1,688	44.6%	1,652	43.2%
最終処分量	126	3.2%	126	3.2%	113	3.0%	113	3.0%	116	3.0%
その他量	2	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

※端数処理の関係で、合計は一致しない。